

標 題 : Index-based Dietary Patterns and Risk of Esophageal and Gastric Cancer
in a Large Cohort Study
大規模なコホート研究における
指針に基づく食事パターンと食道癌および胃癌のリスク

著 者 : W.-Q. Li, et al. (米国 国立衛生研究所 国立癌研究所
癌疫学・遺伝学部 遺伝疫学部門)

掲 載 誌 : Clin. Gastroenterol. Hepatol. 11: 1130-1136 (2013)

要 旨 :

背景と目的 : 食事は食道癌および胃癌のリスクに影響したが、関連は一致しなかった。食事は複雑なので、個々の食品の研究よりも食事パターンの研究の方が癌の危険因子を確認しやすいと思われる。指針に基づく食事パターンと食道癌および胃癌に関しては、限られた研究しかない。「健康的な食事指針 2005(HEI-2005)」および「代替地中海食事(aMED)スコア」と食道癌および胃癌のリスクとの間の関連を、我々は追跡して評価した。

方 法 : 「国立衛生研究所-AARP 食事と健康研究」の参加者 494,968 人からのデータを我々は解析した、そこで AARP メンバー(51-70 歳)は 1995 年と 1996 年の間に開始時の自己記入の食事頻度アンケートを完了した。その解答を使用して、各指針のスコアを算定した。

結 果 : 追跡期間中に(1995-2006 年)、参加者は 215 件の食道扁平上皮癌(ESCCs)、633 件の食道腺癌(EACs)、453 件の胃噴門部腺癌、および 501 件の胃非噴門部腺癌を発症した。
HEI-2005 の高いスコアは ESCC の低いリスク(5 段階での最高と最低の比較で : ハザード比 0.51、95%信頼区間 0.31-0.86、 $P_{\text{動向}}=0.001$)および EAC の低いリスク(ハザード比 0.75、95%信頼区間 0.57-0.98、 $P_{\text{動向}}=0.01$)と関連した。
ESCC(EAC は違う)と高い aMED スコア(高品質の食事を意味する)との間の逆相関を、我々は観察した。
HEI-2005 および aMED スコアは、胃の噴門部と非噴門部の腺癌とも有意には関連しなかった。

結 論 : 「国立衛生研究所-AARP 食事と健康研究」から 1995 から 2006 年に集めたデータを用いると、HEI-2005 および aMED スコアは食道癌、特に ESCC のリスクと逆相関した。食事勧告の順守は食道癌の予防に役立つと思われる。

キーワード : 食習慣、食道腫瘍、胃の腫瘍
